

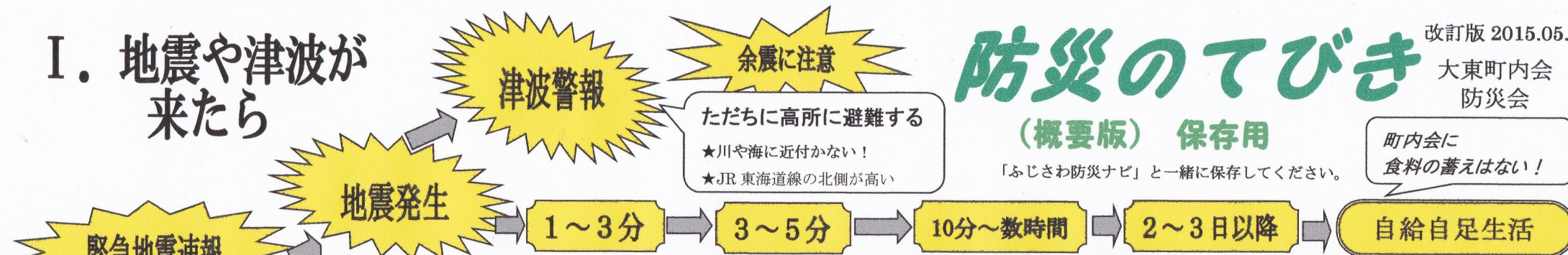
防災のてびき

(概要版) 保存用

「ふじさわ防災ナビ」と一緒に保存してください。

町内会に
食料の蓄えはない!

I. 地震や津波が 来たら



地震速報がでたら
災害発生に備える

- 火元確認
コンロの火を消す
- 避難準備

揺れている間は
自分の身を守る事に
専念する

- テーブルの下などに隠れる
- タンス、TV、冷蔵庫など転
倒しそうな物から離れる

揺れが治まったら
自分と家族の安全を
確認する

- 火の始末
- 在宅家族の安否確認

在宅家族の安全
が確認されたら
身の回りの安全を
確認する

- 外出家族の安否確認
- 正確な情報把握
- 自宅の被害調査

身の回りの安全
が確認されたら

- 7日分の生活必需品を備蓄する
- 簡易トイレの用意を忘れず
レジ袋活用トイレなど、猫砂で消臭
*水洗トイレは使用禁止

○避難準備

- ★ドアや窓を開け脱出ルートを確認する
- ★非常持出し品を準備する
(非常持出し袋、ヘルメット、靴やスリッパ、
軍手など)
- ★津波の避難場所を確認する

★火を消す(水をかける、消火器を使う)
(天井まで火が回ってしまったら消火を諦め避難する)

★石油・ガスの元栓を閉める。電気ブレーカーを切る

○外出家族の安否確認

- ★園児、小中学生を迎えに行く
- ★通勤・通学など外出家族の安否
を確認する
- 正確な情報把握
- ★ラジオ、TV、防災無線を活用
- ★デマ、噂に惑わされないように
- 自宅の被害を調査
- ★倒壊の恐れがあれば、家から
離れ組長に報告する

家屋の倒壊など

避難所生活

在宅家族の安否確認

- 在宅家族の「安全確認が出来た方」は、
「無事表示」としてタオルや貼り紙
などを玄関に掲げる
- 「被災した方」がいる家庭は、組長や近隣
の方に「救援要請」をする
- 町内会員は、在宅家族の安否、家屋等の
被災状況を「組長に報告」する
(安否確認報告メモを使用)

共助の開始

町内会の協力体制

みんなで協力しよう!
向こう三軒両隣の共助です

自助⇒共助⇒公助

自分を守る!
家族を守る!
近所を守る!

災害対策本部の立ち上げ
市と連動して立ち上げる
(震度5強以上、大津波警報など)

- ★総務班、情報班、救出・消火班、
救護班、避難施設班、避難誘導
班、防犯・警備班、給食・給水班
などが活動
- ※ 単独で行動しない
(複数で行動し二次災害を避ける)

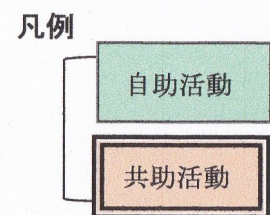
隣近所で互いに安否確認

- ★ まず、被災者の救出と初期消火
- ★ 「無事表示」が掛っていない家庭などに
「声をかけ」、安否を確認
結果を組長に報告する (メモで報告)
- ★ 「被災した方」がいる場合は、訪問者が
玄関に「緊急支援表示」を掲げる

○「役員」は町内会館に集合し、情報収集

○「組長」は組内会員の安否確認および家屋や
電気、ガス、水道などのライフ・ラインの被害状況を
調査し、本部の班長に報告 (メモで報告)

○「班長」は各組の安否情報を取りまとめる



避難する時のルール

- 避難対象者は、自宅の火災・倒壊等で住む場所が無くなった
人で、他に親戚などの避難先がない人
- 避難場所では町内単位で行動し、個人で行動しない
- 避難生活では避難所のルールを守る (土足、ペット禁止など)

- 各戸個別に避難所(鶴小、鶴中)に移動する
- ★ 1班、2班⇒鶴沼小、3~5班⇒鶴沼中
- ★ 避難する際ご近所と声を掛け合う
- ★ ヘルメット、軍手着用、非常持出し袋を持参
- 大規模火災時は広域避難所(八部公園)